

『専攻別3つのポリシー』
〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈学生の受け入れ方針〉

1. 人間科学専攻（教育研究領域）博士前期課程の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

大学院人間科学専攻（教育研究領域）博士前期課程では、専攻の用意する様々な授業での学習や研究の経験を積み重ねた結果として、修了時に次のような力（知識、技能、態度）を身につけ、総合的な思考力と判断力を備えた人物に修士（人間科学）の学位を授与します。

1. 教育学に関する幅広い視野及び精深な学識。
2. 研究倫理を有し、教育学における適切な研究方法に支えられた高度な研究能力。
3. 現代社会の教育学に関連する諸課題を自ら見出す力、探求心、および問題解決力。
4. 教育と人間の発達・成長の支援に関する実証的な研究能力または教育の現場や国際協力活動、生涯学習などの分野で協働的に職務を遂行できる能力。
5. グローバル時代において自らの専門性に基づいて地域および国際社会に貢献することのできる柔軟な思考力と、的確で総合的な判断力。
6. 独自性のある研究成果を導き出し、それを精確に発信する力。
7. 多様な他者を尊重しつつ、能動的に関わり、協働する態度。
8. 生涯にわたり、知的、学問的関心を発展させ、主体的に探究し続ける姿勢

『専攻別3つのポリシー』
〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈学生の受け入れ方針〉

2. 人間科学専攻（教育研究領域）博士前期課程の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

大学院人間科学専攻（教育研究領域）博士前期課程では、心理学、哲学、教育学にわたる多角的な視点を踏まえて幅広く人間科学全体を鳥瞰するための「人間科学基礎論」および、その上に焦点化された教育研究領域の研究を可能とするために「教育実践研究」「生涯学習研究」「国際教育研究」3つの研究領域の柱を立ててカリキュラムを構成しています。

本専攻では、「人間科学基礎論」の科目群を置き、心理学、哲学、教育学にわたる多角的な視点を踏まえて幅広く人間科学全体を鳥瞰する教育内容を学びます。また、その上に焦点化された研究を可能とするための「教育研究」領域の科目群を、3つの研究領域の柱を立てて設置しています。

「教育実践研究」では、幼児教育および初等中等教育をめぐる諸問題等を扱います。「生涯学習研究」では、生涯学習の理論やシステムに関する研究を扱います。「国際教育研究」では、グローバルとローカルの双方向の視点から諸外国の教育制度・政策、国際教育協力等について扱います。上記の3つの研究領域が重複する研究課題の設定も可能です。

また、演習形式の科目群として、「教育研究」領域の科目群の3つの研究領域の柱に対応して、「教育実践研究演習1・2」「生涯学習研究演習1・2」「国際教育研究演習1・2」を用意し、自分の専門とする分野の演習を1年次に4単位履修することを定めています。

「人間科学特別演習」では、研究を深めて修士論文を作成します。修士論文作成に向けた研究指導、論文作成指導の機会はカリキュラム上も、研究指導体制上も十分に保障されます。

なお、本専攻では、一種免許状取得者は、当該免許校種・教科にかかわる先週免許状取得の基礎資格を得るための教職課程を設置しており、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭（社会）、高等学校教諭（地理歴史・公民）の専修免許取得が可能です。

『専攻別3つのポリシー』
〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈学生の受け入れ方針〉

3. 人間科学専攻（教育研究領域）博士前期課程 の学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

大学院人間科学専攻（教育研究領域）博士前期課程では、教育研究領域における多様な研究関心と背景を持つ学生を受け入れるため、外国人特別入試、社会人特別入試および長期履修学生制度を設けています。入学者受け入れにあたって、次のような点を重視します。

1. 人間の成長や社会の発展を支える教育および学習の在り方に対して強い関心を持ち、学士課程修了程度の教育学の素養と英語能力があること。
2. 教育および人間の成長発達の支援に関する研究の課題意識が明確であり、計画性をもって有意義な研究を進めることが期待できること。
3. 修了後は専門性に基づいて、学校教育、生涯学習、国際教育協力、マスメディア、情報等の分野で社会に貢献することを目指していること。

なお、特色あるカリキュラムとして「教育実践研究」「生涯学習研究」「国際教育研究」の3研究領域を設定していますが、入学者募集においては区別をしていません。また、いずれの領域においても、外国人特別入試、社会人特別入試および長期履修学生制度を設け、様々な研究関心と背景や経験を持つ学生の受け入れを積極的に行っています。現職教員の受け入れも歓迎しています。

4. 受け入れの判定については、外国語の試験では、専門分野の英語文献を読みこなす力があるかを判定するために読解を課し、基礎知識を測ると同時に構文の読解力、および日本語の文章力を評価します。専門科目の試験では、学士課程修了程度の教育学に関する基礎知識を測定するとともに、データの読み取りや長文の論述を求め、教育学に関する知識と思考力・表現力を評価します。また口述試験においては、研究に対する主体性や科学的な研究計画を構築し遂行する思考力・判断力・意欲を評価するとともに、多様な人々と協働して学ぶ態度を培っていきける人材かどうかを判定します。

『専攻別3つのポリシー』
〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈学生の受け入れ方針〉

1. 人間科学専攻（心理学分野）博士前期課程の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

人間科学専攻博士前期課程心理学分野では、「視聴覚情報研究」「発達心理学研究」「臨床心理学研究」の各領域での学びを通し、専門的知識と研究能力を身につけることにより、多様化する社会のニーズに応え、心理学の専門家として多様な分野で貢献する力を備えた人材の育成を目指します。

人間科学専攻博士前期課程心理学分野での講義・演習・実習・研究活動を通し、人間のこころの働きやその仕組み、生涯発達の様相とメカニズム、こころの問題と支援方法に関する高度な専門的知識と技能を習得し、修了時には次のような3種類の力を身につけていることを期待します。

1. 心理学および関連領域における幅広い知識と領域を俯瞰する広い視野に基づき、科学的、分析的思考力と的確な判断力を発揮して、変化を続ける現代社会の諸問題を見出す力。さらに、専門的知見と技能を活かし課題の解決を図る力と成果を発信し社会に積極的に還元する力。
2. 研究倫理を遵守し、高度な研究能力を保持増進し主体的に学問的探求を続ける謙虚な姿勢。職業倫理を遵守し、生涯にわたり知的、学問的関心を発展させ、継続して研鑽を積む覚悟。
3. 多様な他者を尊重しつつ、近接領域の専門家と連携して課題を見出し、協働して積極的に問題解決を図る能力。

『専攻別3つのポリシー』
〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈学生の受け入れ方針〉

2. 人間科学専攻（心理学分野）博士前期課程の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

人間科学専攻博士前期課程（心理学分野）では、「視聴覚情報研究」「発達心理学研究」「臨床心理学研究」の各領域において専門性を深めるとともに、他領域についても学び幅広い学識と国際的な視野を獲得するために、体系的で幅広い学識を養うための演習・実習などのコースワークと研究能力の育成を目指すリサーチワークのバランス性に配慮したカリキュラムを編成しています。

本専攻ではまず必修の「人間科学基礎論」において、人間の心的過程及び行動全般を支える感覚、学習、記憶の心理学および脳神経科学、進化生物学などに関する基礎的知識を習得し、人間性に関する哲学的・社会歴史的理解も深めます。同時に、以下の3領域のいずれかに所属し、それぞれの領域でより専門的な知識を習得します。

「視聴覚情報研究」領域では、視、聴、触知覚などの知覚的情報処理のメカニズム、あるいはその発達や発達障害、さらには、これらの応用について学びます。

「発達心理学研究」領域では、乳児から老年までのさまざまな発達の様相、発達の仕組み、また、発達を規定する生物学的、文化・社会的要因について学びます。

「臨床心理学研究」領域では、多様な心理的問題と、その問題を抱える人への援助について、背景理論や最新の知見を学ぶ講義に加え、演習や学内・学外施設での実習を通して臨床心理査定や面接の技法等の心理臨床の実践方法を学びます。

カリキュラム構成は、専門とする領域以外の履修も求められるなど、他領域についても学ぶよう設計されています。関連領域や近接領域について学ぶことにより、視野を広げ、事象を多角的、複合的にとらえる能力を養い、自身の専門領域における理解をより深めることを目指しています。

3領域のいずれにおいても、博士前期課程2年次に修士論文を執筆します。1年次より指導教員、副指導教員のもとで研究指導計画書を作成しリサーチワークを進める中で、研究計画の立案や研究方法について学びます。2年次に「心理学修士論文演習」を履修し、実証的なデータに基づく科学的な学術論文を作成し、人間科学専攻博士前期課程（心理学分野）での学習の集大成を目指します。

『専攻別3つのポリシー』
〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈学生の受け入れ方針〉

3. 人間科学専攻（心理学分野）博士前期課程の学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

人間科学専攻博士前期課程（心理学分野）では、「視聴覚情報研究」「発達心理学研究」「臨床心理学研究」の各領域で学ぶために十分な基礎的知識と深い学問的関心を持ち、さらに豊かな人間性と高い倫理性を備えており、修了後には大学院で培われた資質と能力をもとに、専門家として社会に貢献することを目指している方を積極的に受け入れます。

心理学の特色である科学的な研究方法を理解し、心理学全般や近接領域の基礎知識に加え特に認知心理学、発達心理学、臨床心理学の基礎的な概念と理論に精通しており、大学院で専門的に学んだ内容と経験を将来の心理実践や研究活動に活かすことを目指す学生を受け入れます。したがって、進学を希望する学生には、以下のような力があることが望まれます。

1. 自らの問題意識に基づく粘り強い探求心
2. 主体的に学ぶ意欲と発信力
3. 他者と協働するのに必要なコミュニケーション力と謙虚な態度

受け入れの判定については、英語の試験では、専門分野の英語文献を読みこなす力があるかを判定するために読解を課し、基礎知識を測ると同時に構文の読解力、および日本語の文章力を評価します。専門科目の試験では、心理学全般の基礎知識を測定するとともに、長文の論述を求め、特に専門としたい領域の知識と思考力・表現力を評価します。また口述試験においては、研究に対する主体性や科学的な研究計画を構築し遂行する思考力・判断力・意欲を評価するとともに、多様な人々と協働して学ぶために必要なコミュニケーション力を備えている人材かどうかを判定します。